

今年は、例年より早い梅雨入りでした。6 月は、読書行事を計画している学校もあることでしょう。授業でもおおいに学校図書館を活用し、各自の課題を学校図書館資料で調べる学習も、計画してください。高学年や中学校では、図書資料、新聞、ファイル資料、インターネット、インタビューなど、メディアの特性を生かして利用できる力の育成が大切です。

学校図書館の機能を見直す

なぜ、図書室ではなく学校図書館なのでしょう。一般的には、「図書室」と呼ばれることも多いのですが、部屋の名前ではなく学校図書館には機能があります。学校図書館の機能を日々の教育活動で十分に発揮させるために、学校図書館法第 2 条（定義）を見てみましょう。

○対象の学校

小学校（特別支援学校の小学部を含む。）

中学校（中等教育学校の前期課程及び特別支援学校の中学部を含む。）

高等学校（中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部を含む。）

○学校図書館資料

図書、視覚聴覚教育の資料その他学校教育に必要な資料

学校図書館資料は、本だけではありません。

○利用者

児童又は生徒及び教員の利用に供する

教材センターとしての機能もあります。

○目的

学校の教育課程の展開に寄与する

児童又は生徒の健全な教養を育成する

学習指導要領の総則でも学校図書館の計画的な利用が配慮事項になっています。

ということで、全校で計画的に学校図書館を活用していくことが大切です。そのために、司書教諭または学校図書館担当教員が中心になって、学校図書館活用計画を作成しましょう。授業で学校図書館を活用しましょう。一部の本好きな児童生徒だけではなく、すべての児童生徒への読書指導を計画しましょう。学校図書館は、奉仕機関とともに指導機関です。学校としての方針や計画をもちましょう。

図鑑の指導 ～目次と索引～

生活科の地域巡りで見つけた草花を調べたり、理科で昆虫について調べたり、図鑑は、小学校低学年から利用しやすい資料です。

図鑑の利用で大切なことは、目次と索引の使い方です。調べたい生き物や草花の**名前が分かっているときは、索引**を利用すると、掲載されているページがすぐに分かります。**名前が分からないときは、目次**で検討をつけます。目次は、取り上げた項目を一定の基準で仲間分けし、利用者が利用しやすいように工夫されています。大項目・中項目・小項目から見当をつけて、掲載されているページを開きます。別の図鑑でも調べて見比べ、調べたいものを特定します。

名前が分かったら索引が役に立ちます。詳しく書いている本も探してみましょう。

中学生でも、図書資料で調べるときに、目次と索引の使い方を復習するとよいでしょう。

梅雨空の下、各学校では、夏休みを迎える準備が始まっているのではないのでしょうか。おかげさまで、学校図書館アドバイザーとして1学期中にすべての学校を訪問することができそうです。ご協力のほど、感謝申し上げます。

学校図書館の整備進む

学校図書館支援員が配置され、学校図書館の整備が進んでいます。学校図書館が教育課程の展開に寄与するためには、図書以外の資料の収集・保存・提供も必要です。たとえば、地域の資料や修学旅行先のパンフレットなどをファイル資料として整備すると便利です。

図書資料（本）は、分類され、分類記号順に配架され、案内表示がはっきり示されていると求めている図書資料が探しやすくなります。分類法には、一館分類法と標準分類法があります。日本における標準分類法は、日本十進分類法（NDC）です。図書資料管理の電算化により目録が備わり、必要な本が検索できるようになりました。各教科等の単元で利用する資料は、重点を決め、計画的に収集しましょう。

読書に親しませ、個に応じて読書の質を高めていくためには、居心地がよく、本と出合える学校図書館にすることと、児童・生徒が学校図書館を利用する機会をつくる必要があります。学校図書館の整備が進む中、各学校でのさらなる利用の促進をお願いします。

新宿中学校&四谷中学校合同イベント ビブリオバトル 開催

6月28日（金）四谷中学校において「平成25年度第1回四谷図書館交流会 新宿中学校&四谷中学校合同イベント ビブリオバトル」が行われました。ビブリオバトルとは、参加者がおすすめの本を持って集合し、5分間（今回は3分間）でその書評を発表します。その後、2分か3分の質疑応答時間を取り、最後に、全員が読みたくなかった本に投票し、「チャンプ本」を決定します。紹介された本は、小説から実用書まで多岐にわたり、読書に親しみ、深め、交流しあう有意義な催しでした。

2年目にあたる今年度、第1回のチャンプ本は、新宿中学校下屋敷海都さんがおすすめる「ツナグ」（辻村深月 新潮社）でした。

個人の課題を解決する学習

OECDでは、知識基盤社会における大切な能力（キーコンピテンシー）の一つとして、道具としての言葉を活用することをあげ、中央教育審議会の学習指導要領の主な改善点が、言語活動の充実でした。学習指導要領では、配慮すべき事項として、引き続き「学校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、児童生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること」が示されています。

今月は、夏休みの自由研究のための指導資料を添付しました。各学校で参考にしたり改良したりして、授業や夏休みの自由研究指導などに活用していただけたら嬉しいです。

個人の課題を解決する学習で一番大切なのは、課題の設定です。研究の動機がしっかりしているかどうか、その課題が課題として妥当かどうか、授業では各自に応じた指導をし、夏休みの自由研究では事前指導を行うことがポイントです。

また、メディアの特性を生かして効果的に活用できる、複数の資料や情報を比べて評価・選択できる、調べたことと自分の考えを分けて表現できることなどをめざして、発達段階に応じて指導したいです。

二学期が始まりました。8 月 27 日（火）には、読書感想文集「けやき」の担当者会議があります。各学校の「けやき」への代表作品選定は、青少年読書感想文コンクールの校内審査を兼ねていますので、お間違いのないようよろしくお願いします。

組織的・計画的な蔵書構成を

今年度は、図書の購入費が増額されています。学校として組織的にしっかり検討して、有効に使ってください。すでに図書購入を完了している学校は、今後の参考にしてください。

- ①司書教諭や担当者の頭の中にある学校図書館メディア収集計画（方針）を文章化しておきましょう。
- ②図書購入費は、公費です。担当の先生方、スクールスタッフ、学校図書館支援員等による学校図書館メディア選定委員会を作るなど、学校として組織的に購入しましょう。
- ③各教科等で学校図書館を活用する計画を立て、学習に必要な資料を充実しましょう。
- ④蔵書構成を考え、文学偏重にならないようにしましょう。学習・情報センターと読書センターの二つの機能の充実を図るため、学校の方針をもってバランスの良い蔵書構成にしましょう。

以下は、全国学校図書館協議会「学校図書館メディア基準」における蔵書の「標準配分比率」です。絵本は、それぞれの分類に数えています。基準となる蔵書数が異なる上、科学読み物や民話伝説などの分類の仕方によっても違ってきますが、参考にご覧ください。

項目	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 語学	9 文学	合計	
校種	小学校	6	2	18	9	15	6	5	9	4	26	100%
	中学校	6	3	17	10	15	6	5	8	5	25	100%

（「標準配分比率」全国学校図書館協議会）

新宿区立小中学校の分類別蔵書比率は、以下の通りです。

項目	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	E 絵本	その他 エラー等	総計	
校種	小学校	2.2	0.7	6.8	6.7	12.3	4.0	3.1	5.8	2.9	35.8	18.9	1.0	100%
	中学校	3.2	2.5	11.4	9.2	9.6	5.1	2.2	10.0	4.2	40.9	1.6	0.1	100%

（平成 25 年 7 月）

- ⑤読み物も、児童・生徒のリクエストと先生方が読ませたい本とのバランスを考えて購入計画を立てましょう。読ませたい本は、積極的に児童・生徒に紹介し、読書量を増やすとともに読書の質を高めましょう。科学読み物やノンフィクションも薦めましょう。

読書感想文の指導

学校では、読書感想文は、募集するものではなく指導するものだと考えています。日常的な読書指導や作文指導をしっかり行い、読書に親しみ、読書の質の向上も図りながら、読書で身の回りのことや社会のことなどを考え、文章で表現するのが読書感想文です。絵で表現するのが読書感想画です。

本の内容をしっかり捉え、読書により深く考え、自分の意見を持ち、それを表現する力を育成することは、すべての児童・生徒が対象です。読書により自己の成長が感じられる作品を目指したいものです。低学年は、学級で読み聞かせをして、話し合い、作者や登場人物への手紙形式で書かせてもよいでしょう。

読書週間（10月27日～11月9日）



10月や11月は、読書週間行事を計画している学校が多いと思います。
文化の日を中心に2週間、10月27日から11月9日は、読書週間です。読書週間は、読書推進運動協議会の主催で1947年から実施されており、今年の標語は、「本



と旅する 本を旅する」です。ロゴ、ポップやしおりなどに使えるグッズを読書推進運動協議会のホームページから入手できます。

初日の10月27日は、「文字・活字文化振興法」で「文字・活字文化の日」と定められています。

図書の貸出・返却も読書指導

学習指導要領において、読書の目当ては、国語科の目標（3）後半に述べられています。

- ＜小学校1・2年生＞楽しんで読書しようとする態度を育てる。
- ＜小学校3・4年生＞幅広く読書しようとする態度を育てる。
- ＜小学校5・6年生＞読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。
- ＜中学校1年生＞読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる。
- ＜中学校2年生＞読書を生活に役立てようとする態度を育てる。
- ＜中学校3年生＞読書を通して自己を向上させようとする態度を育てる。

国語の「指導計画の作成と内容の取扱い」には、小学校も中学校も「学校図書館などを計画的に利用しその機能の活用を図るようにする」と述べられています。近年は、読書に親しむ児童・生徒が増加傾向にありますが、学年が上がるにつれて読書離れや学校図書館の利用が減少することが課題となっています。読書の質の向上も必要です。

児童・生徒の読書生活の向上を図るため、こんな取り組みは、どうでしょう。

①図書の貸出・返却の時間を教育計画の中に位置づける

休み時間や昼休みに数人しか学校図書館を利用していない学校は、図書の貸出・返却のための時間を設定したいものです。朝読書の時間に、隔週で10分間設定するという案もあります。図書の貸出しは、読書材の選択の学習です。時間を特設したり、国語科の中で設定したりできないでしょうか。

先生方が貸出・返却業務を行うと、児童・生徒の読書傾向が分かり、「怖いお話ばかりでなく、心が温かくなるお話も読んでみよう。」「この本は、君が気に入ると思うよ。」などと、個に応じた指導ができます。学校図書館支援員やスクールスタッフに図書の紹介をしてもらおうとよいでしょう。

②各教科等の学習に関連して、読ませたい図書の紹介を行い、並行読書をさせる

例えば、昆虫の学習をするときに、生き物に関する科学読み物を紹介したり、江戸時代の学習をするときに江戸時代を舞台にした物語を紹介したりすると、読書の幅が広がります。

③学校図書館を授業で利用し、学校図書館に親しませる

学校図書館を身近な存在にするためには、利用しなれていることも大切です。

☆今月の添付は、読書週間にちなんで、高学年・中学生対象の掲示用「おすすめの本」紹介シートと津久戸小学校の「全校読み聞かせ集会」での高学年用の記録用紙です。「全校読み聞かせ集会」は、4・5・6年生が選んだ本を校内の好きな場所で1・2・3年生にペアで読み聞かせをする集会活動です。

学校図書館を活用して、情報活用能力の育成を

2 学期も半ばを過ぎました。日々の授業で学校図書館は活用されているでしょうか。

何かを調べるときにインターネットは便利ですが、学校では、さまざまなメディアを効果的に活用できる力を育成することが大切です。

図書資料、新聞、雑誌、パンフレット、リーフレット、ちらし、実物、模型、CD-ROM、CD、ビデオ、録音機器、児童の作品、実験、観察、見学、写真撮影、体験、インタビュー、インターネット情報、タブレット等、調べるためのツールは、たくさんあります。その活用方法を発達段階に応じて指導し、小学校高学年から中学生になったら、さまざまなメディアを効果的に活用しようとする態度を育成しましょう。特に、図書資料とインターネット情報との長所と短所や留意点を考察させ、それぞれの特性を活かして活用しようとする態度を養いたいものです。

さらに、複数の情報を比べ、評価し、取捨選択したり自分なりの考えをもったりすることも大切です。

すべての先生方、司書教諭や学校図書館担当教員、学校図書館支援員、スクールスタッフが連携し、学校図書館を活用した学習計画を立て、学習に必要な資料を整備し、学校図書館を活用して情報活用能力を育成していく観点が大切です。

学校図書館支援員の授業支援例

学校図書館支援員やスクールスタッフは、教員ではないので指導を任せることはできませんが、その専門性を生かし、ゲストティーチャーを依頼することができます。

例 1 学習に必要な資料を取り寄せるとき、児童・生徒が個々に、どんなことを調べていてどんな資料がほしいのか、学校図書館支援員に話をする機会を設けると、学習が主体的になり、レファレンスの受け方の学習にもなります。(中学年以上)

例 2 国語の教科書に紹介されている図書に何冊か付け足して、ブックトークをしてもらう。教科書の図書は、例示です。掲載されていなくても同じテーマや同じ意図の図書を紹介することも可能です。学習に関連のある図書を展示している光景はよく目にしますが、言葉で紹介されることによりさらに魅力が伝わり、読んでみたくなるものです。(全学年)

例 3 参考図書の使い方をレクチャーしてもらう。導入と終末は、授業者が指導し、学校図書館支援員やスクールスタッフにはゲストティーチャーとして話してもらいます。図鑑・百科事典・年鑑等の利用の他、ファイル資料の作り方、図書館の使い方などの指導も考えられます。

新宿区立図書館の団体貸出を利用する場合、金曜日までにリクエストすると次の金曜日に学校に届きます。具体的な書名でも図書資料の内容でもリクエストでき、各校 100 冊まで借りられます。また、2 か月ごとに 150 冊借りられるコースもあります。図書館への依頼や借りた資料のチェックなど学校図書館支援員と上手に連携して、区立図書館も活用してください。

今月の添付は、学校図書館や区立図書館を活用した探求型の学習を展開するための、指導案の例示と情報記録カード・資料リストです。各教科の単元に合わせて、応用してください。

東京の紅葉は今が見ごろ。教育センターから見える戸山公園の木々も色とりどりでなかなか趣のある景色です。2年生の担任をしていた時、生活科の学習で「秋を見つけよう」の単元なのに12月に見学に行ったことを思い出しました。

図書資料で調べるにより見学や体験を一般化したり広げたりすることができます。

「银杏の葉を見つけたよ。」

「他にも黄色くなる葉はあるのかな。」「赤くなる葉もいっぱいあるね。」

「银杏にはオスとメスがあるんだって。」「他にも秋を見つけないな。」

各教科等での学校図書館活用を今後も推進していきましょう。

学校図書館の評価

12月になると多くの学校で年度末の学校評価の準備が始まることと思います。学校図書館に関する評価もぜひ行い、司書教諭や学校図書館担当教員を中心に来年度計画を立案してください。

例えば、次のようなことを柱に評価してみたいと思います。

- 1 図書館経営・図書館運営
- 2 学校図書館の整備
- 3 各教科等での活用
- 4 読書指導・読書活動の推進

今年度の図書購入費の執行を確実に

各学校とも学校図書館資料の更新が進んでいる今日この頃です。

今年度の図書購入費が残っている学校は、確実に予算の執行をしてください。できれば12月中、遅くとも1月中には注文が完了するようお願いします。特に、「教育課程の展開に寄与する」（学校図書館法）学校図書館の目的が達成されるような0類から8類までの図書の充実が望まれます。授業で活用する学校図書館を目指して、蔵書構成も計画してください。

読書感想文 今年度も新宿区から全国へ

今年度も読書感想文集「けやき」の編集が進んでおり、区長賞の表彰式が12日（木）に行われます。今、区長さんは、表彰を受ける児童の作品と対象図書を読んでもらっているそうです。

小学校低学年「メガネをかけたら」 津久戸小1年（「メガネをかけたら」）

中学年「びりっかすの神さま」から教わったこと 早稲田小3年（「びりっかすの神さま」）

高学年「いのちをつなぐ」 花園小5年（「いのちをつなぐ」）

中学校 優柔不断からの脱出 四谷中3年（「終末のフール」）

また、四谷第六小学校2年生の「わたしのいちばんあのこの1ばん」を読んだ「いちばんが すきだな」が東京都で特選に入賞し、全国コンクールに出品されました。

日ごろの読書と作文の指導の成果が「けやき」です。読書で考え文章で表現する力が育成されます。各学校でのご指導に、敬意を表します。来年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

今月の添付資料は、「テーマを決めるためのいろいろな方法」です。11月13日に愛日小学校研究発表会の「発想する力分科会」で配布した図に少しつけ加えました。個人課題研究で、テーマを決める過程は、難しいけれどとても大切な学習過程です。参考にして丁寧に指導してください。

明けましておめでとうございます。

三学期が始まりました。昨年度まで、冬の学校図書館は、誰もいなくてしんと冷え込んでいる日が多かったのではないのでしょうか。スクールスタッフに加えて学校図書館支援員が配置された今年度は、学校図書館が温かくなる日が増え、いつもより利用しやすくなっていることと思います。

先生方が学校図書館を活用し、それをスクールスタッフ・学校図書館支援員・司書教諭が支援する。司書教諭や学校図書館担当教員は、学校図書館活用の推進役です。みんなが連携して学校図書館が子供たちの教育に役立つよう、私も学校図書館アドバイザーとして働かせていただきます。

今年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

授業をするのは教員

図鑑や百科事典などの参考図書の利用や図書館の利用の仕方は、国語科や特別活動をはじめ各教科等で教員が指導する内容です。しかし、多くの大学の教員養成課程には、それらを学ぶ機会が設けられていません。そこで、司書教諭講習や司書講習で学んだ人にゲストティーチャーを依頼することが考えられます。

しかし、授業をするのは、教員（教諭・主任教諭・主幹教諭）です。指導計画を立て、指導案を考え、ゲストティーチャーへの依頼内容を考えます。

ゲストティーチャーは授業をする人ではなく、授業を支援する人です。スクールスタッフや学校図書館支援員等にゲストティーチャーをお願いする時は、少なくとも導入とまとめは授業者が行うこと、授業者は、ゲストティーチャーと共に授業を進め、学習のねらいを達成することが大切です。

スクールスタッフや学校図書館支援員と上手に連携して、学校図書館を効果的に活用しましょう。

牛込第二中学校の学校図書館 夏目漱石コーナーが充実

新宿区は、漱石終焉の地にある「漱石公園」に隣接して（仮称）「漱石山房」記念館の整備を進めています。夏目漱石は、新宿区喜久井町に生まれ、早稲田南町に没しています。そのどちらも学区域としているのが、牛込第二中学校です。

同校は、以前より学校図書館内に「夏目漱石コーナー」を作り、漱石の著書や関連資料を置いていましたが、このほど掲示コーナーが拡充され、素敵にリニューアルしました。漱石に親しみ、漱石研究にも役立つコーナーです。牛込第二中学校を訪れた際には、ぜひ見学させていただきたいです。



☆今月号の『初等教育資料』は、「子供の読書活動の推進」の特集号です。私も津久戸小学校での実践を報告させていただいております。『初等教育資料』は、教育センターにもあります。

☆今月の添付資料は、本の分類と配架の指導資料です。小学校中学年向けと高学年・中学生向けを作りました。指導の参考にしてください。

しんじゅく学校図書館

学校図書館アドバイザーだより

平成 26 年 2 月 3 日 第 9 号
 新宿区立教育センター 研修・研究・教育開発室
 学校図書館アドバイザー

各学校では、今、来年度の教育計画を立てていることと思います。今年度、学校図書館を活用した単元、活用すればよかったと思う単元、これらをまとめると、学校図書館の活用計画が立て易いでしょう。児童・生徒に読書に親しませるとともに、読書生活の質の向上も考えていきましょう。

読書感想文集「けやき」発行

今月 10 日頃に、各学校に新宿区読書感想文集「けやき」が届きます。本アドバイザーだより今月号に、「けやき」の活用例を掲載しています。ほかにも様々な工夫をいただき、有効に活用してください。なお、雑誌『学校図書館 2 月号』（全国学校図書館協議会）に第 59 回青少年読書感想文全国コンクールの内閣総理大臣賞と文部科学大臣奨励賞の作品が掲載されています。これらは、新宿区立こども図書館で閲覧できます。

観光庁長官賞に愛日小学校 2 年生 第 17 回図書館を使った調べる学習コンクール

今、自らの課題を設定して調べる学習が重視されています。「第 17 回図書館を使った調べる学習コンクール」に出品された作品の中から、新宿区代表の作品は、観光庁長官賞に愛日小学校 2 年生「日本妖怪大しゅう合」、奨励賞に早稲田小学校 2 年生「化石のけんきゅう」が入賞し、61 名が佳作でした。

学校図書館研修会

1 月 24 日東戸山小学校で、学校図書館研修会が行われました。

牧田健一副校長先生からは、「図書館に大人がいない時間をゼロにしたいということからボランティアを募り、貸出が倍増した。」という報告や来年度の抱負等を伺いました。藤原登美先生からは、「調べる学習は、『なぜ』（動機づけ）が大事」という実践報告と 2 年生での「いなばの白うさぎ」「きみたちは『図書館探偵団』『百科事典の使い方』などにおける学校図書館支援員や戸山図書館との連携の実践報告があり、学校図書館支援員の服部恵子さんからは、主な業務内容が紹介されました。

グループ討議も活発に行われ、実りの多い研修会でした。

WEB サイト「しんじゅく学校図書館」開設

先に連絡版でお知らせした WEB サイトの利用は、以下のように、「新宿区立教育センター」から「しんじゅく学校図書館」に入ってください。

The image shows a screenshot of the Shinjuku Education Center website. On the left, a navigation menu is visible with a button labeled 'しんじゅく学校図書館' (Shinjuku School Library). A callout bubble points to this button with the text 'ここをクリックします。' (Click here). An arrow points from this button to a larger screenshot of the library website on the right. This second screenshot shows the library's homepage with various sections: '新宿区の学校図書館' (School Libraries in Shinjuku), '読書活動・読書指導' (Reading Activities and Guidance), '授業での活用' (Use in Classrooms), and 'リンク' (Links). A callout bubble points to the 'リンク' section with the text '必要な資料をご利用ください。' (Please use the necessary materials).

年度末を迎え、締めくくりの時期となりました。学校図書館では、卒業・進級に向けてのレイアウトや最終貸出・返却の業務等を計画されていることと思います。

今月号の添付は、単立ちゆく卒業生対象の「公共図書館の利用」の学習資料です。東京都立図書館や国立国会図書館についても知ってほしいとこの資料を作成しました。

読み聞かせの効果

子供たちと読書をつなぐ手法は、ストーリーテリング、エプロンシアター、パネルシアター、アニメーション、読み聞かせなど、たくさんあります。その中で、読み聞かせは、誰でも、いつでも、どこでも行うことができ、広く行われています。

読み聞かせは、読み手と聞き手がともに同じ空間で作品世界を共有し合い、その世界を味わう手法です。読み聞かせとは読んで聞かせるのではないと、「読みきかせ」「よみきかせ」「読み語り」など、その人の思いがこもった呼び方をする人もいます。また、読み聞かせは、文字への抵抗をなくし本に親しむとともに、耳からの読書で想像力や理解力を養う効果もあります。読み聞かせを聞くことは、大人でも心地よいものです。

プロジェクタで絵本を映して読んだり小道具や音楽を使ったりする方法も楽しい手法ですが、1冊の本を共有するという点では、読み聞かせとは意味や世界が違ったものになります。余談ですが、資料として本の中の絵や写真をプロジェクタで見せる時も、本を開いて見せてから映し出すのと画像だけを見せるのでは、図書資料としての意味合いが違います。

読み聞かせは、本を通して担任と子供、親と子供がより深く繋がることも期待されます。読み聞かせの基本は、まず、親や担任による読み聞かせです。さらに、校内の先生方、スクールスタッフ、学校図書館支援員、地域の方々などいろいろな方々の読み聞かせを聞くことにより、読書の幅が広がるだけでなく家族や担任以外の人の話もきちんと聞ける力が養われます。

低学年では、一度読んでもらった本を繰り返し読む傾向があります。中学年・高学年は、読み聞かせ自体を楽しみながら、各自の読書に間接的に影響していきます。担任が、中・長編を連続して毎日読み聞かせることも効果的です。

聞く隊形は、集まって隣同士の肩と肩が触れ合うか触れ合わない程度がよいと言われています。聞き手同士の息づかいがお互いに伝わることによる場の共有が効果的なようです。子供たちが担任以外の読み聞かせを聞いているとき、担任は、ぜひ子供たちと一緒に読み聞かせを楽しんでください。

読み聞かせと感想 ～戸山小学校にて～

戸山小学校に伺った時のこと、1年生の授業が始まりました。読み聞かせの隊形に並ぶまでは担任が指導し、スクールスタッフが読み聞かせをしました。担任も子供たちと一緒に聞きます。「おばあさんのスプーン」（福音館書店）を読み聞かせ、「ゆきのかたち」（ひさかたチャイルド）を紹介しました。子供たちからは、「それ、読みたい。」の声。

読み聞かせと本の紹介が終わると、担任の先生は、「思ったことや感想を言いたい人。」と声をかけました。子供たちからたくさん手が挙がり、何人かが発表しました。感想を聞いたり書いたりすることにマイナスのイメージをもつ人もいますが、子供たちが感想をもつ力を付けると、進んでそれを言いたいと思うように育つのだなあと感じました。「感想を言いましょう」でも「感想はありませんか」でもなく、「言いたい人」という声かけが素晴らしいと感じました。